



政府関係機関の 地方移転に係る 追加説明について

国立健康・栄養研究所の誘致に関する提案

岡山県美作市

岡山県美作市の誘致の利点

1. 体育・スポーツの連携 (P3)

- ◎日本体育大学との連携による身体活動評価の研究が可能
- ◎「女子サッカー岡山湯郷ベル」の選手によるスポーツ栄養学の研究が可能

2. 栄養調査 (P4)

- ◎農作物の栄養成分分析と高齢者の栄養摂取の研究が可能
- ◎栄養委員や愛育委員による高齢者の栄養調査の実施が可能

3. 優良な圃場の活用 (P5)

- ◎土壌改良による農作物の栄養変化と摂取の影響の研究が可能
- ◎圃場の提供が可能

4. 誘致予定地 (P6、P7)

(1)安定した気候・少ない地震発生回数 (P6)

- ◎年間を通じて安定した気候
- ◎県内を震源とする地震は皆無

(2)必要に応じて対応できる誘致先 (P7)

- ◎県立江見商業高校跡地の利用
- ◎工業団地の用地の利用

1. 体育・スポーツの連携

①日本体育大学との連携協定



体育・スポーツ及び健康づくりの分野において、それぞれの有する教育資源を有効かつ適切に活用し、相互が一層の発展と社会貢献を図ることを目的に、平成26年12月1日に

「体育・スポーツ振興に関する調印」を行っている。

連携により、幅広い年齢層の身体活動について研究が可能となる。

②女子サッカーによるスポーツ栄養学の研究



GK: 福元 美穂

MF: 宮間 あや

「女子サッカー岡山湯郷ベル」の選手を対象にしたスポーツ選手の栄養摂取など、食事と筋力についての研究が可能である。

また、近年利用者が増えているサプリメントと筋力の関係などの研究も重要である。

低年齢から成長期、スポーツ選手、壮年期から高齢者など、スポーツ栄養学の実践的研究フィールドとなりえる。

2. 栄養調査

- ① **農作物の栄養成分分析と高齢者の栄養摂取の研究が可能**
 - 農作物の栄養成分分析を活用し、健康増進への効果・影響の研究が可能である。
 - 特に、高齢化率の高い美作市では、ボランティアの協力により高齢者の栄養摂取を臨床実験ができる。

- ② **栄養委員や愛育委員による高齢者の栄養調査の実施が可能**
 - 栄養委員や愛育委員の活動を活用することが可能で、生活習慣病予防のための運動と食事の関係について研究が可能である。
 - このほか、民生委員や地区区長など、地方には多様なボランティアやネットワークがあり、調査実施における体制の整備が可能である。

3. 優良な圃場の活用

- A) 土壤改良による農作物の栄養変化と摂取の影響の研究が可能
- ◆ 土壤改良による農作物の栄養変化を成分分析することにより、比較研究が行える。また、成分分析の結果を、土壤改良へフィードバックすることにより、良質な農作物の育成が可能となる。このことから、優良圃場の確保は重要である。
 - ◆ 大豆イソフラボンについては、研究素材そのものの研究に加え、その研究素材を栽培した圃場の研究や育成方法の研究が必須であるが、美作市は全国有数の黒大豆生産地であり、良質の素材の確保が可能である。
- B) 圃場の提供が可能
- ◆ 圃場の確保は、遊休農地や小作農地も多く、黒大豆の生産者が多いことから、それらの研究を効率的に行う研究環境が確保できる。
 - ◆ 土壤改良など多様な研究に応じた圃場の確保が可能である。

4. 誘致予定地

① 安定した気候・少ない地震発生回数

A) 年間を通じて安定した気候

- ◆ 降水量1mm未満の年間日数 276.8日／年 【全国第1位】
- ◆ 年間日照時間 2,097時間 【全国第8位】
- ◆ 年平均気温 16.7℃ 【全国第18位】

B) 地震発生の少なさ

- ◆ 岡山県は、過去90年で震度4以上を観測した地震は16回【全国第3位】
- ◆ また16回のうち、県内を震源とした地震は1度もない

温暖な気候で、降雨量も少なく、地震の影響を受けにくい地域である。

② 誘致を提案する場所

A) 江見商業高校跡地(校舎・体育館・グラウンド)

◆ 場所:岡山県美作市江見520番地

B) 作東地区工業団地

◆ 造成済み ①0.9ha(宮原) ②1.6ha(宮原)
③1.5ha(上福原) ④0.3ha(上福原)
⑤3.4ha(山城)

C) 民間所有の遊休地(工場用地)

◆ 造成済み 約2ha(真加部)

政府関係機関の地方移転について

【岡山県】

提案対象機関：森林技術総合研修所（機械化センターを含む）

研修及び宿泊で利用可能な施設の候補地及び整備状況

- ・研修施設の場所については、露天風呂番付で西の横綱である湯原温泉がある湯原地域を中心に検討する。現地研修地についても市内近接地を予定している
- ・また、新たな木材製品である「CLT」を利用した施設を県と市が協力して設置し、魅力的な研修施設としたいと考える

移転により新たな付加価値を創出するための取り組み（具体的な現地実習プログラム・研修費用等）

- ・木質バイオマス発電所、発電用木質チップ工場等での研修
- ・真庭の木質バイオマス事業の成り立ちについて、行政主導ではない地域の若者リーダー達が集まって自主的に行ってきた背景など他では聞けない内容の研修
- ・木材市場での現地研修が可能であり、マーケットの動向を理解した上での森林施業の取組みについての研修
- ・原木市場、製材工場、CLT工場、木質バイオマス発電所等、様々な木材需要者が存在するため、木材がカスケード利用されている現状についての研修
- ・H28年4月に稼働する日本初のCLT工場での視察研修
- ・緩傾斜・急傾斜等の様々な地形条件が存在し、路網密度も比較的高く、育林・伐出の両面で、短伐期循環型施業や長伐期優良林施業など、様々な研修を実施することが可能
- ・地籍調査が94%終了しており境界が明確で、精度の高い森林GISの利用に関する研修が可能

研修講師の確保（真庭での講師の可能性）

日本CLT協会会長：中島浩一郎氏（銘建工業（株）代表取締役社長）他、原木市場、製材工場、CLT工場、木質バイオマス発電所等各事業所の職員等、真庭木材事業協同組合、森林組合職員、各素材生産業者等、岡山県農林水産総合センター森林研究所職員等

真庭市で研修することの意義

- ・CLTや木質バイオマス発電など新しい取組について体感できるメリットがある
- ・上記「移転により新たな付加価値を創出するための取り組み」欄に記入の各種研修が受講可能

受講者や講師の交通利便性を確保する方策

- ・岡山空港や岡山駅からの研修専用バス（チャーター便）の運行を検討する
- ・岡山駅～勝山駅間の高速バスの増便等についてもバス会社へ働きかけを行っていく
- ・コミュニティバスと高速バスの乗り継ぎの利便性の改善を検討していく

真庭市における森林技術総合研修所の運営について

1 宿泊及び研修施設など

・湯原温泉がある湯原地域を中心に、CLTを利用した施設を新たに建設し、研修施設として提供を検討

2 研修のイメージ

○西日本でも有数の木材集散地、森林・林業・木材産業に関するすべての現場・施設がコンパクトに集合



伐採、集材、造材の現場



原木市場(3市場)



製品市場(1市場)



製材所(30社)
多彩な製品を製造



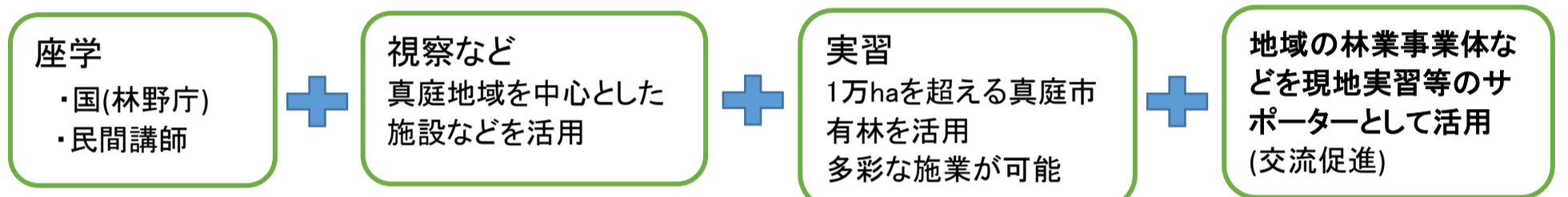
CLT製造(1箇所)



バイオマス発電所(1箇所)



【林業のサイクル循環に必要な現場・施設がすべてある】

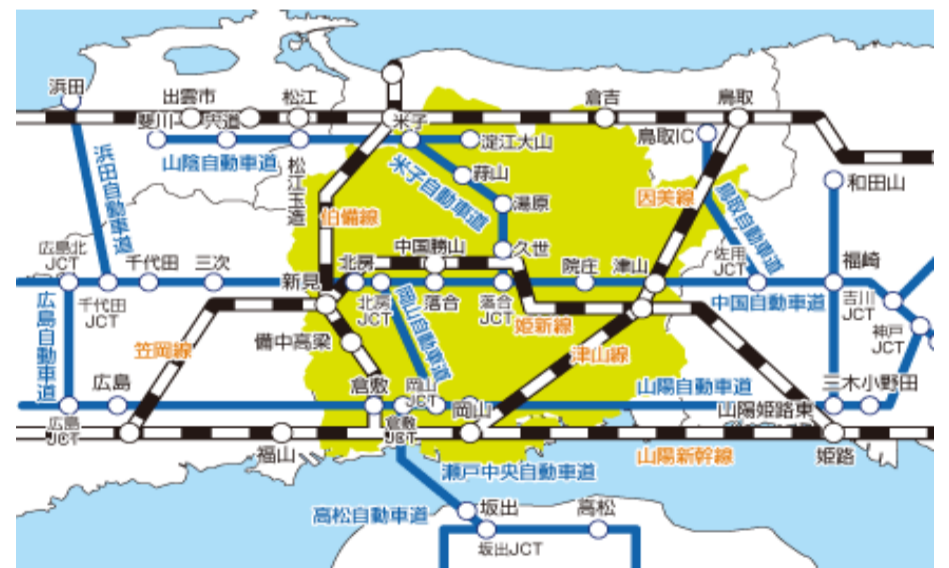


(メリット)
 ・より現場に密着した(現場の声を聞く)研修カリキュラムの編成が可能
 ・木材加工やバイオマス等の研修カリキュラムも充実が可能、特にマーケットに関する情報は豊富

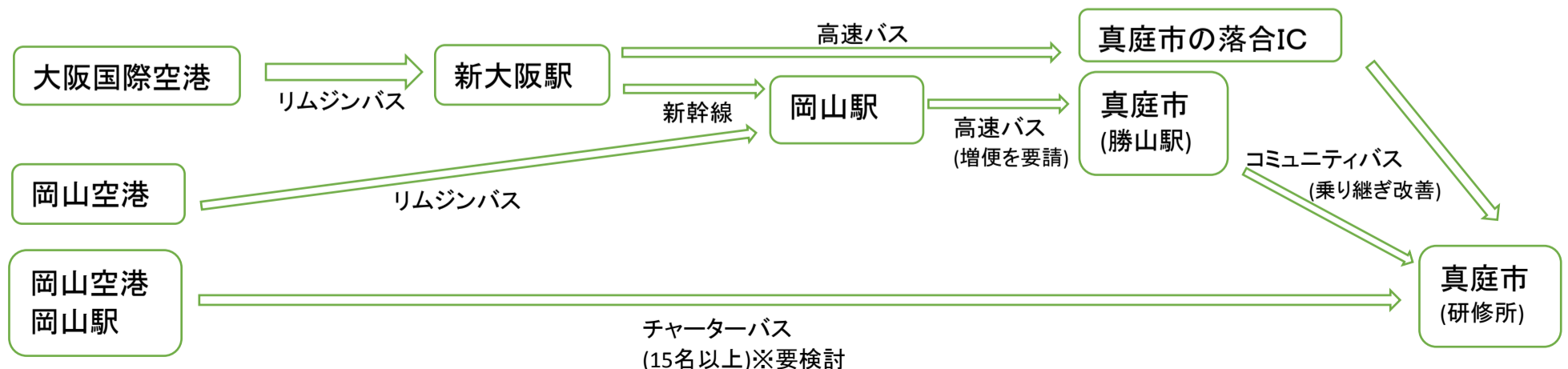
3 交通の利便性



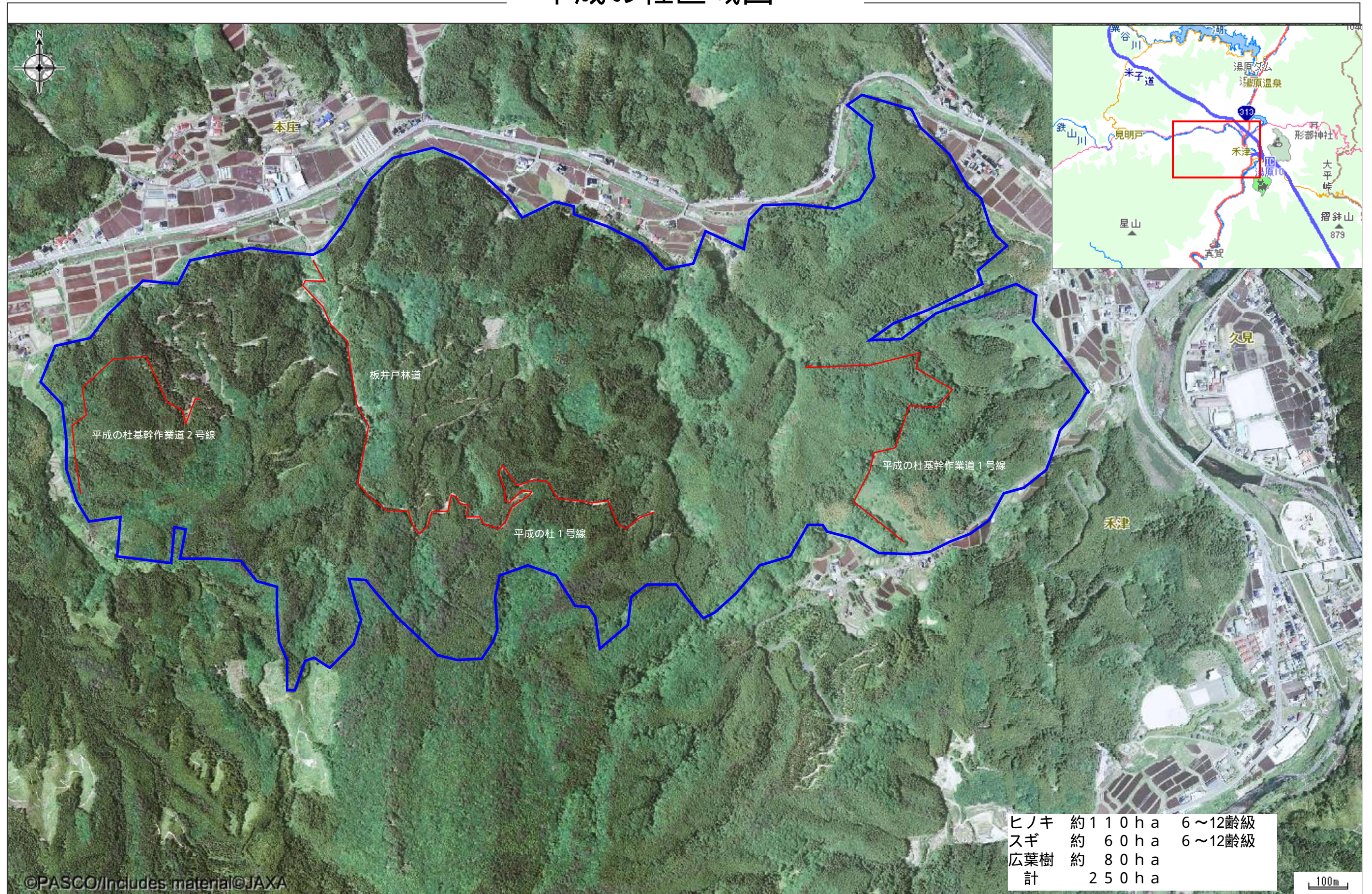
・東京→岡山 1日 10便
 ・札幌→岡山 1日 1便
 ・直行便がない地域は大阪国際空港(35運航都市)などを活用(その後、新幹線、高速バスなどを活用)



・新幹線 東京→岡山 約3時間20分、鹿児島中央→岡山 約3時間
 新大阪→岡山 約45分
 ・高速バス 新大阪→津山 約2時間40分
 新大阪→落合IC 約2時間50分、岡山→真庭 約2時間



平成の杜区域図



政府関係機関の 地方移転に係る 再提案について

自衛隊体育学校の誘致に関する提案

岡山県 美作市

再提案のポイント

1. 美作市が移転を提案する時期

◆ 2020年開催の東京オリンピック終了以後の移転を提案するもの

- 当然、2020年までは現在の施設を活用し、大会に向けて育成・強化を行うべきである。
- しかし、体育学校開設から54年が経過し、開設当時よりも選手・指導者を育成する種目も増加している。
- 現施設は老朽化も進み、新たに女子7人制ラグビー(サクラセブンズ)やカヌー競技など、幅広い種目への対応が求められている。
- このことから、東京オリンピック以後に施設・機能の移転提案するものであり、本格移転となれば一朝一夕になるものではなく、複数年度が必要となるものである。

2. 安定した気候・災害のない地域

◆ 災害に対応した施設整備

- 首都直下地震や南海トラフ地震などが懸念される地震大国の日本にあって、岡山県は過去90年間に震度4以上の地震は16回、かつ県内に震源は皆無である。
- 天候も「晴れの国」と称する通り、降水量1mm未満の日数／年は276.8日で全国1位。
- 年間日照時間2,97時間／年で全国第8位、年間降水量は1,216mm／年は全国第45位と少なく、安定した気候であり、選手の練習環境、施設の立地条件として大変有利である。

再提案のポイント

3. 災害時の対応

◆ 災害対応の拠点

- 当市は首都直下地震や南海トラフ地震の影響を受けない地域であり、大規模災害対応の重要な拠点として機能を発揮できる。
- 本提案で説明している施設用地には700m滑走路が取れ、最大離陸重量27.4tのオスプレーの離陸も可能である。
- この他にも、C-XやC-130、C-1などの輸送機の離発着が可能である。

4. ナショナルトレーニングセンターをはじめとする施設の利用

◆ 体育学校の機能の充実

- ナショナルトレーニングセンター（NTC）での合宿は日本代表選手に選ばれた場合であり、今後は、自衛隊体育学校自体の練習環境の充実を図ることが重要である。
- 充実を図るための施設用地は、朝霞駐屯地内の用地面積の約3倍（約27ha）を確保しており、育成種目の増加や必要とする施設の準備が可能となる。
- 美作市をはじめとした三県境（兵庫県、鳥取県、岡山県）地域には、数々のスポーツ施設が集積している。今後取り組みを充実強化する女子7人制ラグビー（サクラセブンズ）やカヌー競技などの練習環境について、十分な施設利用が可能である。

再提案のポイント

5. 大学等や地域との連携

◆ 大学や実業団の合宿との連携

- 大学や実業団の合宿地として、活発に利用されている。女子7人制ラグビーにおいても、合宿が行われるなど、他団体との交流や練習が可能である。

◆ 専修学校との連携

- スポーツトレーナーや栄養士など、選手を支えるスタッフは重要である。美作市では、看護師等専修学校の誘致の目途が立ち、サポート体制を担う人材(鍼灸・柔道整復・スポーツトレーナー)の育成環境が整う。また、専修学校のグループ内からの人材供給も可能である。

◆ 地方自治体の連携

- 兵庫県や鳥取県、岡山県の自治体による「三県境地域創生会議」や、岡山県北自治体による「美作国スポーツコミッション」により、育成種目に合わせた施設の有効活用が可能である。

◆ 連携による新たな付加価値の創出

- 自衛隊体育学校を「美作市スポーツ人材育成クラスター」の中核的な役割を担うものと位置づけ、新たな自衛隊体育学校の在り方を提案する。(P6～P9を参照)

再提案のポイント

6. 空港等へのアクセスと効率

◆ 国内への移動

- 鉄道では、発着の多い岡山駅から新幹線を利用でき、また、智頭急行線で大原駅から新大阪まで100分で移動できる。
- 空路では、岡山空港、鳥取砂丘コナン空港、大阪空港(伊丹)もあり、移動手段は多彩である。

◆ 海外への移動

- 空路での海外への移動は、岡山空港から仁川空港を経由する場合や関西国際空港から世界各地へ移動手段が整っている。

7. その他

◆ 通信環境

- 岡山県は、情報ハイウェイにより高度な通信環境が整備されており、閉鎖系の行政系の通信が容易に準備できる、

◆ 職員の住環境

- 近傍にある雇用促進住宅をリノベーションし、教育施設や郵便局、病院など一次生活圏の機能が備わっている。

◆ 医療施設

- 医療施設は、津山中央病院など拠点病院や、産婦人科や小児科、総合医療を担う医療機関がある。

美作市スポーツ人材育成クラスター構想

～自衛隊体育学校の誘致を目指して～

岡山県美作市

美作市スポーツ人材育成クラスター

我が国においては、発達障害の発生率は年々上昇傾向にあると言われ、早期の発見や適切な療育が必要とされている。その療育の方法として、昨今注目されているのが、スポーツを通じた療育である。すでに、スポーツ・体育教育に定評のある教育機関においては、研究が進められているところである。その際、教育のフィールドとしては、都市部より豊かな自然に囲まれた地域における療育の方が良いとされている。

一方、アジアにおいては、発達障害の発生率が高いにもかかわらず、適切な対応が十分にとられていないことが課題となっている。我が国の優れた発達障害克服のメソッドをアジアに展開することで、国際貢献を行うことが可能である。

◆我が国の障害者の状況 → 国民の約6% (出典 平成27年版障害者白書)

- ・身体障害者 393万7千人 (1000人当たり 31人)
- ・知的障害者 74万1千人 (1000人当たり 6人)
- ・精神障害者 320万1千人 (1000人当たり 25人)

アジアは約10%(WHO推計)

特別支援教育(義務教育段階)の状況 (H26.5.1現在 文部科学省調べ)

特別支援学校

0.67%(約 69,000人)
10年前比で1.3倍

※特別支援学校の対象

視覚障害、知的障害、病弱・身体虚弱、聴覚障害、肢体不自由

増加傾向

小・中学校

全児童生徒数の
3.33%(約34万人)
が特別支援教育
の対象

特別支援学級

1.84%(約187,000人)
10年前比で2.1倍

通常の学級

0.82%(約 84,000人)
10年前比で2.3倍

※発達障害(学習障害(LD)・注意欠陥多動性障害(ADHD)・高機能自閉症等)の可能性のある児童生徒 6.5%程度の在籍率

Ⅲ. 分野別施策の基本的方向

3. 教育,文化芸術活動・スポーツ等
- (4)文化芸術活動,スポーツ等の振興

障害者基本計画(第3次)(H25.9)(抜粋)

○障害者が地域において,文化芸術活動,スポーツ等に親しむことができる施設・設備の整備等を進めるとともに,障害者のニーズに応じた文化芸術活動,スポーツに関する人材の養成等の取組を行い,障害の有無にかかわらず,文化芸術活動,スポーツを行うことのできる環境づくりに取り組む。特に,障害者の芸術活動に対する支援や,障害者の芸術作品の展示等を推進する仕組みを検討し,推進を図る。

○障害者芸術・文化祭や全国障害者スポーツ大会の開催を通じて,障害者の文化芸術活動,スポーツの普及を図るとともに,民間団体等が行う文化芸術活動,スポーツ等に関する取組を支援する。特に,身体障害者や知的障害者に比べて普及が遅れている精神障害者のスポーツの振興に取り組む。

○パラリンピック,デフリンピック,スペシャルオリンピックス等への参加の支援等,スポーツ等における障害者の国内外の交流を支援するとともに,パラリンピック等の競技性の高い障害者スポーツにおけるアスリートの育成強化を図る。

美作市スポーツ人材育成クラスター(発達障害対策の手法の確立と国際的展開)

岡山県美作市は、発達障害の発生率が岡山県下で一番高く、美作市が本年8月に策定した「美作市まち・ひと・しごと創生総合戦略」においても、重点施策として、「発達支援センター設立事業」や「私立特別支援学校の誘致」を掲げているところである。

一方、美作市は、剣聖宮本武蔵や少林寺拳法創始者宗道臣の生誕地であるなど、スポーツ・武道の盛んなところであり、若年層から全国大会に出場する選手の輩出がみられている。また、女子サッカー“なでしこジャパン”で主将を務めた宮間選手を擁する岡山湯郷ベルの本拠地であるとともに、平成27年5月にはNODAレーシングアカデミーが開校するなど、世界で活躍するスポーツ選手の輩出を目指している。さらに、平成26年12月に学校法人日本体育大学と自治体としては初となる「体育・スポーツ振興に関する連携協定」を締結しており、特別支援学校の誘致について協議を進めている(平成32年4月開校予定)。他方、全国展開する医療系専門学校を営む学校法人に対し、全国的にも珍しいスポーツトレーナーや臨床心理士の育成課程の充実した専門学校の開校について協議を進めている(平成30年4月開校予定)。このように、美作市では、スポーツに関する幅広い人材を育成するクラスター活動を実践している。

なお、美作市は、周辺の複数の市町村とスポーツに関する支援体制を構築しており、地域連携による人材育成クラスター活動が実行できることも強みである。

美作市スポーツ人材育成クラスターは、スポーツを通じた発達障害対策の手法(以下「発達障害克服のメソッド」と記す)を確立することを目指しており、これは今後発達障害の子どもの増加が予想されるアジア諸国に対して有効であり、アジアへの展開を見据えた取組を意識している。

自衛隊体育学校は、美作市が推進するスポーツ人材育成クラスターの中核的な役割を担うものと位置付けており、オリンピックを目指す選手の育成に対して、最高のトレーニング環境を提供するとともに、スポーツトレーナー・臨床心理士などサポート面までを含めた総合的な支援を行うものである。また、クラスターとして推進することで、発達障害克服のメソッドを会得することは、隊員のケアに役立つだけでなく、スキルを身に着けた隊員のセカンドキャリアに生かせることにもなる。発達障害をスポーツにより克服することは、地域貢献に資するものであり、自衛隊体育学校の新しい在り方として提案したい。

美作市スポーツ人材育成クラスター(自衛隊体育学校の機能の拡充)

アジアへの展開

日本体育大学
美作市と連携協定(平成26年12月)
特別支援学校
【トップアスリート(パラリンピック選手)の育成】
【発達障害克服のメソッド】



地域資源の有効活用

ベトナム国立ダナン大学
美作市と連携協定(平成27年4月)



NODAレーシングアカデミー
(全寮制レーシングスクール)
【F1レーサー等の育成】

(仮称)美作市スポーツ医療専門学校
【スポーツトレーナー等の育成】
・鍼灸スポーツトレーナー学科
・柔整スポーツトレーナー学科
・鍼灸師・柔道整復師学科
・臨床心理士学科

人材派遣

自衛隊体育学校
【オリンピック選手の育成】
【指導者の育成】
【発達障害克服メソッドによる隊員のケア】
【障害者スポーツに貢献できる自衛隊】
【スペシャルオリンピックス等への参加支援】

分野別トップクラスの訓練



日本体育大学
新事業展開
【モータースポーツ選手等の育成】

女子団体スポーツの訓練

岡山湯郷ベル
【女子プロサッカーチーム】

美作市発達支援センター
【セカンドキャリア(指導者)】

拡充・横展開

(仮称)美作スポーツアカデミー
(全寮制ゴルフ・テニススクール)
【世界で活躍するゴルフ・テニスプレーヤーの育成】

地域連携クラスターとして、支援・協力

三県境地域創生会議(6市町村)

美作国スポーツコミッション(9市町村)

各府省見解に対する説明【自衛隊体育学校】.xlsx

	各省庁の見解	各府省の見解に対する説明
その機関の性格上、東京圏にないか	体育学校で選手育成に取り組んでいる各スポーツ競技の協会・連盟は東京圏に存在するため、各スポーツ競技の国際大会等へ選手が参加する際の連絡・調整を日頃から頻繁に実施するには東京圏に所在することが効率的	岡山県は情報ハイウェイにより高度な通信環境が整備されており、通信手段を用いた日常的な連絡・調整手段には支障がないものと考えます。
	体育学校における体育指導者及び国際的に活躍する選手の育成のため、教育訓練及び調査研究に関する調整を、陸上・海上・航空・統合幕僚監部(市ヶ谷)と頻繁に実施する事が必要	岡山県は情報ハイウェイにより高度な通信環境が整備されており、通信手段を用いた日常的な連絡・調整手段には支障がないものと考えます。
	オリンピック等出場レベルの選手育成のためには、実業団等所属選手団との合同練習等が必要であるとともに、日本代表選手に選考された場合は、東京都に所在するナショナルトレーニングセンター(NTC)を拠点に実施される国内合宿等への参加が必要のほか、首都圏の関連機関(各スポーツ競技の協会・連盟等)と密接な連絡調整を行う必要がある。	ナショナルトレーニングセンター(NTC)での合宿は日本代表選手に選ばれた場合であり、自衛隊体育学校自体の練習環境の充実を図ることが重要であると考えます。合同練習については、当市を中心に大学等の合宿が行われており、関連機関の調整を図ることで合同練習が可能です。それにより地域に埋もれる選手の発掘も可能となります。
	オリンピック等に出場する国際級選手育成のための科学的なトレーニングの実施に際し、国内最先端のノウハウを蓄積している国立スポーツ科学センター(所在地:東京都北区)及び各大学(日本体育大学、日本大学、帝京大学等)等との連携が必要	美作市は、日本体育大学と「スポーツに関する協定」を締結し、合宿の誘致など、スポーツ振興に努めています。また、美作市及び三県境(兵庫県、鳥取県、岡山県)の地域では、大学及び実業団等の合宿が行われています。
体育学校は、NTCからオリンピック強化選手育成のための競技別強化拠点に指定されている。具体的には近代5種(フェンシング、馬術、水泳、射撃、ランニング)の競技に係る合同訓練等を実施しており、ナショナルチームや警察庁等の日本を代表するオリンピック候補者の人材育成も併せて行っている。	ナショナルトレーニングセンターでは、東京都北区の施設で補えない部分を競技別強化拠点に指定しており、自衛隊体育学校の練習環境の充実が必要です。美作市が用意する施設用地は、朝霞駐屯地内の用地の約3倍に相当し、さらなる環境整備が可能となります。	
機関の任務に照らした成果の確保・向上、行政運営の効率の確保	体育学校における指揮統制、施設の利用及びトレーナー等の運用上の観点から、東京圏に存在することが効率的	指揮統制は、機能の全部移転を行えば可能と考える。施設については、市内をはじめとして十分に活用できる施設が用意できると考えています。現在、スポーツ医療専門学校の誘致を行っており、スポーツトレーナー等の育成の環境づくりを進めている。今後は、地域においても専属のトレーナーや栄養士等の人材確保が可能になる見込みです。
	体育学校での教育訓練及び調査研究において、部外講師、トレーナー及び栄養士などを部外委託している状況であり、今後、各分野の専門家である部外講師の活用、より質の高いトレーナー及び栄養士等の有能な人材の維持・確保のためには、経験値の高い人材が集中している東京圏に所在することが効率的	現在、スポーツ医療専門学校の誘致を行っており、鍼灸・柔道整復・スポーツトレーナーの育成の環境整備を進めている。また、管理栄養士を育成する大学もあるなど、地域においても専属のトレーナーや栄養士等の人材確保が可能です。
	国内外で活躍する選手育成のためには、実業団等所属選手団との合同練習等が必要であり、東京圏ではその調整が効率的	市内では、大学等の合宿も多い。また、合宿助成も検討しており、東京圏と比較して、充分調整が可能と考えます。
	体育学校所属選手が国内外における大会等へ参加する際、便数の多い空港が近傍にあると効率的(体育学校から成田空港及び羽田空港へのアクセスは約1時間程度)	体育学校から成田空港までは電車を利用しても約90分、自動車の移動でも約100kmあり約90分が必要となるなど、移動に要する時間に大きな差はないと考えます。むしろ、混雑や渋滞をした場合には、時間と労力は選手にとって大きな負担となります。
	有望選手の獲得のため、全国の学校及び企業等を対象にスカウト活動を実施するため、全国各地へのアクセスのよい東京圏に所在する事が、より効率的	移動には、発着の多い岡山駅から新幹線を利用することも可能である。また、智頭急行線で大原駅から新大阪まで100分で移動できます。空路では、岡山空港、鳥取砂丘コナン空港、大阪空港(伊丹)や関西国際空港もあり、移動手段は多彩です。
	現在、体育学校の施設の維持管理等は朝霞駐屯地業務隊等が実施	近傍に陸上自衛隊日本原駐屯地があり、工夫により対応できる可能性があると考えます。
	各放送・新聞社等の本社が東京圏に集中しており、競技会や選手に対する取材の便が良好であり、広報が容易	現在でも、報道関係者の取材は全国的に行われており、また、通信手段も多種多様に発展しており、報道機関の対応は十分可能と考えます。
	カヌー基幹要員集合訓練実施において、現在、ナショナルチーム要員が1名選抜されており、ナショナルチームの利用している戸田漕艇場は東京圏に存在	戸田漕艇場は、大学や実業団の利用も多い。美作市の提案では、練習時間が自由に設定できる環境です。
駐屯地施設の新設等の観点から、地域への一定の経済効果が期待可能	体育学校の移転による施設建築の効果に加え、施設の運営に必要な資材の購入など、経済効果は非常に大きいと考えます。	

各府省見解に対する説明【自衛隊体育学校】.xlsx

	各省庁の見解	各府省の見解に対する説明
地域への波及効果・なぜその地域か	体育学校学生は、一時的に課程教育に入校している学生であり、課程教育修了後は全国の陸上・海上・航空自衛隊の部隊へ戻るため、地域への定着率は低く、効果は限定的	当然、選手として活躍する期間に体育学校に在籍し、修了後部隊へ戻ることは想定しています。 一定期間、美作市内へ在住していただくことが、十分な効果を生むと考えます。
	災害発生時、学校としての任務は要員派遣が主であり、地域の安定及び住民の保護の観点では効果は限定的	災害、特に地震の発生は岡山県内はかなり低いことはデータで証明されている。美作市は首都直下地震や南海トラフ地震の影響を受けない地域であり、大規模災害対応の重要な拠点として機能を発揮できます。700m滑走路がとれる広大な用地を提供します。
条件整備	体育学校職員の営舎外居住のための官舎、職員家族が利用する高度の医療施設等の生活基盤の整備が必要	営舎外官舎は、リノベーションした雇用促進住宅を活用します。 医療施設は、津山中央病院など拠点病院があります。 その他日常生活に必要とされる生活基盤は、美作市や津山市を中心に確保することができます。
	体育学校職員及び学生のための警備、通信、物品管理、給食、厚生、医療、会計等のための機能を有する施設整備及び陸自としての要員増加が必要	近傍に陸上自衛隊日本原駐屯地があり、工夫により最小限の対応ですむと思われれます。
	良質なトレーナー、栄養士及び部外講師の確保が必要	現在、スポーツ医療専門学校の誘致の目途がたっており、鍼灸・柔道整復・スポーツトレーナーの育成を進めることとしています。 また、管理栄養士を育成する大学もあるなど、地域においても専属のトレーナーや栄養士等の人材確保が可能です。
	現在の学校庁隊舎、アーチェリー訓練場、体育館、厩舎、射場、グラウンド、プールと同等の練習施設が整備されることが必要(概算で114億円)であり、既に約18億円の東京オリンピック関連予算を計上していることから、政府全体として冗長な施設整備との指摘を受ける懸念が存在	当然、東京オリンピックに向けた選手育成のためには現施設の改修は必要と理解しています。 現在の施設は、昭和36年から改修をしながら利用をしていますが、施設用地としては、かなり手狭であると考えます。 老朽化し、不十分な体育施設を改修して使い続けるよりも、自然災害が少なく、トレーニング環境の適した地域を選別し、十分な広さを持つ施設用地に、機能的にかつ充実した施設を建設し、地方から優秀な人材を発掘することがこれからの日本のスポーツ振興の更なる発展に寄与することにつながると考えます。
	カヌー基幹要員集合訓練を実施しているため、近傍にカヌーの練習場を有することが必要	自衛隊体育学校がカヌー基幹要員集合訓練を行う場合、近傍の戸田漕艇場となると思われるが、過密な利用状況です。移転すれば、十分な練習環境が整うと考えます。
	全国へのスカウト、練習及び教育訓練、調査研究等の各種調整等のための良好な交通アクセスを有することが必要	移動には、発着の多い岡山駅から新幹線を利用することも可能です。また、智頭急行線で大原駅から新大阪まで100分で移動できます。 空路での国内移動は、岡山空港、鳥取砂丘コナン空港や大阪空港(伊丹)など移動手段は多彩です。
	国際大会が実施される海外へ移動するため、空港までの良好な交通アクセスを有することが必要	空路での海外への移動は、岡山空港から仁川空港を経由する場合や関西国際空港から世界各地へ移動手段が整っています。
	現在、2020年東京五輪大会等に向けた自衛官アスリート育成のための施設整備を推進中であり、オリンピック関連経費として既に18億円を投資済み。	当市の提案は、2020年の東京オリンピック後のスポーツ振興に向けた提案です。その後のスポーツ振興の一躍を担う施設として、移転充実・拡大を提案しています。 また、実際に移転が完了するまでは現施設を使用することから、それまでの施設の維持管理に必要な費用と捉えることができます。
その他特記事項	平成32年度に控えた東京オリンピックに向け、国威発揚のため、上位入賞を目標として各種競技の強化を実施中のところ、各選手の強化には東京圏での安定した練成環境が理想的 2020年の東京オリンピックに向けた国威発揚と選手の強化は、現施設を活用した練習環境の維持は重要と考えています。 本格移転となれば、一朝一夕になるものではなく、当然複数年度が必要であり、本提案は、東京オリンピック以後のスポーツ振興を目指した提案です。	

各府省見解に対する説明【自衛隊体育学校】.xlsx

	各省庁の見解	各府省の見解に対する説明
	首都直下地震や南海トラフ地震における対処計画に基づく対応を行うこととなる。	首都直下地震や南海トラフ地震などが懸念される地震大国の日本にあって、岡山県は過去90年間に震度4以上の地震は16回、かつ県内に震源は皆無です。天候も「晴れの国」と称する通り、安定した気候であり、選手の練習環境、施設の立地条件として大変安定しています。
	なお、自衛隊体育学校においては、全国各地のスポーツ競技施設等において合宿等も行っていることから、条件が合えばこのような形での地域貢献は可能。	美作市を中心に体育施設は充実しており、サクラセブンズをはじめとして、合宿地としての利用も十分対応できる環境があります。